

審査の結果の要旨

四津 里英

本研究は、糖尿病性足潰瘍関連因子を明らかにし、ハイリスク患者の抽出およびその治癒課程予測を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 本研究の対象では、糖尿病性足潰瘍の罹患には従来から知られる神経障害、血管障害、胼胝・鶏眼形成の他、神経症状、家族歴、ヘモグロビン値、身体能力低下、定期的医療機関の受診が因子として関与していたことが示された。
2. 本研究は、糖尿病性足潰瘍群と非足潰瘍群の比較を日本の病院で行った初めての調査であった。糖尿病性足潰瘍関連因子は、欧米諸国での研究結果と異なるものが抽出され、人種差がある可能性が示唆された。具体的には、年齢や **body mass index** がこれに相当した。また、糖尿病家族歴がある者で糖尿病性足潰瘍の罹患率が高く、対象を広げたさらなる研究が必要であるが、これも人種差を示唆する結果のひとつであった。
3. 本研究では、発展途上国においても有用なハイリスク患者同定ツールの開発をモデル化することで試みた。結果、神経症状、ヘモグロビン値、糖尿病家族歴、身体能力低下、胼胝・鶏眼形成、定期的医療機関の受診が因子として抽出された。これらの因子は、資源の不足する場においても測定可能であり、今後このようなツール開発の重要性を提示した。また、糖尿病の早期発見・早期治療によって定期的に医療機関を受診していることが、足潰瘍を予防するためにも重要であることを示した。
4. 糖尿病性足潰瘍を神経障害型、血管障害型、混合型に分類して糖尿病性足潰瘍関連因子を解析したところ、型により関連因子が異なることを示した。混合型では、神経障害型や血管障害型よりもハイリスクであり、特に血流障害は血管障害型よりも軽症であっても、足潰瘍に罹患していることを明らかにした。
5. 4の種類別で糖尿病性足潰瘍の経過・予後を検討したところ、足潰瘍罹患の際には混合型が最もハイリスクであったのに比し、血管障害型が一番難治性であることを示した。

以上、本論文は、日本人患者における糖尿病性足潰瘍関連因子を明らかにし、さらに発展途上国において糖尿病性足潰瘍罹患のハイリスク患者の抽出を試みた。また、糖尿病性足潰瘍を分類することで、各々の型で関連因子が異なる可能性のあることを示した。今後の糖尿病性足潰瘍関連の医療に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。